

近畿・中国境界地帯の方言動向

鎌田良二

現在は共通語化の時代と言われる一方、関西においては京阪ことばが依然勢力をもっていて、これが京阪を中心とその周辺に広げようとする傾向が見られるとも言う。

一般に、共通語が地方に広まっていく場合、地方の中心地にまず伝わり、そこが拠点となりその周辺に広がっていくという現象（「焦点分布の現象」と名づけたい）、また、地方都市のことばがその周辺に勢力をひろめるのと、この関西のものとは別で、かつての中央語が大きな勢力をもって周辺にひろめているというものである。

これには関西人の意識や、地域的条件の問題もあらうと思われる。

関西弁といわれるコワイ（恐しい）やシンドイ（疲れる・困る）などは関西圏を出ていまや広い地域にひろまっている。

本稿は関西方言の動向を、共通語化との関連において観察しようとするものである。観察態度の基本的姿勢として、次のようなことを考えている。

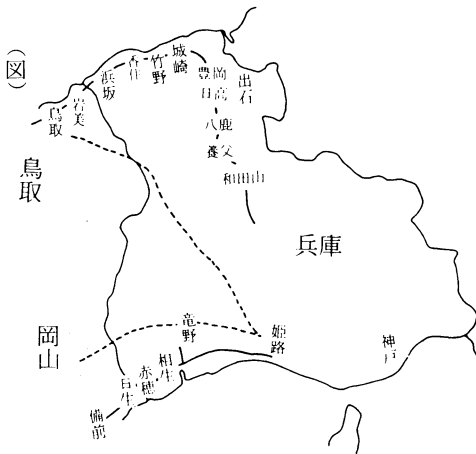
一、(1)京阪語は依然勢力をもっていて、これが京阪を中心にその周辺に広げようとしている。(2)新聞・テレビ・教

育の影響で共通語の浸透力の大きいことを考える。(イ)の相反する二つが調査地点でどのようにかみ合っているか。

二、調査結果を見るについて、若い少年層のことばが将来勢力をもつであろう。特に、男性語よりも女性語の方がいわゆる良いことば、上品なことばとして広まっていくであろう。若くても男性語はその反対に、ぞんざいな言い方として退けられるのではないか。

三、一般に成人男性は他の土地に出かけたり他の土地の人と話したりする機会が多いので新語をとり入れ、成人女性はそのような機会が少ないので方言形を保つと考えられているがこれを確める。

四、日常使用の用具等に関する方言形は残るが、そうでないものは亡び、共通語語形になっていく可能性がある。



調査方法

調査地点(図)に示す通り、兵庫・岡山・鳥取県境の二つのコースをとるものである。但馬地域は兵庫県でありながら中国方言圏に入るので但馬に多くの地点をとった。

一つのコースは兵庫県龍野市・相生市からJR赤穂線で県境を岡山県備前市まで(以下、これを「赤穂線」とする)。

もう一つのコースは兵庫県養父郡養父町からJR山陰線で豊岡市を経て日本海沿いに鳥取市までの線(以下、これを「但馬線」とする)。この線に記した「出石」は豊岡市から東、京都府寄りにバスで三十分ほどの出石郡出石町である。なお(図)の中の点線は今回の調査地点でなく、姫

路……鳥取はバス、姫路……岡山は山陽本線のあることを示す。

インフォーマントは各地点、成人層男女各一名、少年層男女各一名とした。成人層は五十才以上六十五才まで（一部四十才代後半もある）。少年層は中学三年生（一部に二年生もある）。いずれも土地はえぬきの人。

以下の（表）で「成男」「成女」は成人男性、成人女性、「少男」「少女」は少年層男性、少年層女性の意。

調査にあたっては調査用紙を用いた面接調査。調査者はすべて鎌田である。

調査時期は昭和六十三年七月から九月まで。

地域差と場面差

場面差に関する項目として設定したのは次の三項である。

「いくら（値段）」「捨てる」「（雨が）降っているから」

場面設定は次の三場面である。「いくら（値段）」のみ（ ）内の内容で設定した。

- (1) ふつう（近所の店で）
 - (2) 大阪の人に対して（大阪の店で）
 - (3) 東京の人に対して（東京の店で）
- 調査用紙には「いくら（値段）」の場合。

〈近所の店で物の値段をたずねるとき、「いくら」と聞きますか、「なんぼ」と聞きますか〉〈大阪の店で……〉〈東京の店で……〉

「いくら（値段）」

(表1)で、十六地点・四層で合計六十四点(「点」とは一地点の中の一人を一点とする)のうち「近所の店で」はナンボが四十七点ある(併用を含む)のに、これが「大阪の店で」となるとナンボは十二点になり、「東京の店で」では僅か八点になってしまう。

近所の店でナンボが自然で、大阪・東京へ行けばイクラを「使うべきだ」という意識になる。少年層には大阪・東京へ行ったことがないと言っている者もあったが、ナンボはもともと大阪弁のはずだが、この辺りにナンボが進出して来てしまっているのが、ナンボは自分たちの町の地方語で、よその地に行けばイクラと改まったことばを使わなければならぬと思ったのであろう。

ただ、少年男子に「大阪・東京」でもナンボがいくらか残っているのは、この少年たちは成人男子になってもやはり大阪・東京でナンボを使うようになるだろうとるか、即ち、大阪弁の強さの現われとるか、男子中学生は他の土地へ行ってもそのような気を使わない、使う必要がないと考える少年期の心理で、実際に成人になれば変わるだろうと考えるか。女子中学生にはこのようなことはなくイクラになっている。それにしても、男子中学生の十六地点のうち「大阪」八点、「東京」七点は多いように思われる。

「捨てる」

「いらなくなった物を、ごみ箱に「捨てる」ことをふつうどのように言いますか」

〈大阪の人に対してはどのように言いますか〉〈東京の人に〉

この辺りはホカスが一般的。「東京の人に」でステルが多くなっていることからそれがわかるが、ホカスは自然に出てくることばで決して卑俗な語などとは思っていない。「東京の人に」でもかなり残っていることからそれがわかる。

(表1)

凡例

- イクラ
 ■ ナンボ
 ○ } イクラ併用
 ■ } ナンボ

「いくら (値段)」 (近所の店で)

成男	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	○	■	■	■	■	■
成女	■	■	○	■	■		■	■	○	○	■	○	■	○	○	○	○
少男	■	■	■	■	■		■	■	■	○	■	■	■	■	○	■	■
少女	■	■	■	■	■		○	■	○	○	○	○	■	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(大阪の店で)

成男	○	○	○	○	○		○	○	■	○	■	○	■	○	○	○	○
成女	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
少男	■	■	■	■	○		■	○	○	○	○	○	○	■	■	○	■
少女	○	○	○	■	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(東京の店で)

成男	○	○	○	○	○		○	○	○	○	■	○	○	○	○	○	○
成女	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
少男	○	■	■	■	○		■	○	○	○	○	○	○	■	■	○	■
少女	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

赤穂線の日生・備前^{ひなせ}にシテルがある。ステルからの変化と考えられる。「東京の人に」になるとシテルがステルに変っている。この辺りではシとスは簡単に発音し分け得る。

但馬線でホール(放る)とともにホテルがある。ホールとステルとの混交によるものだろうが、この形は「大阪」「東京」でなくなっているが、鳥取のホテルは「大阪の人に」でステルになっている。浜坂のホテルは「大阪」でホカスに変わる。

竹野のホールは「放る」だから「大阪」でも「東京」でも変える必要はないと考えたものであろう。

「少女(中学生女子)」は「東京」になるとすべてステルになっているのはホカスは方言色の濃いものと考えてのこただろう。これに対し中学生男子は「東京」になってもホカスが依然として五地点ある。

「(雨が)降っているから」

△「雨が降っているから、行くのはやめろ」というとき、「降っているから」のところをふつうどのように言いますか△「大阪の人に対して…」△「東京の人に対して…」

標準形に近いフッティルカラ・フッティルノデ・フッテルカラの形は「ふつう」で二点。それが「大阪の人に」になると全体で十八点となり「東京の人に」では三十八点になる。特にそれが少年層に多いことは将来この形はますますふえるものと思われる。

フットルカラとフットルデ、カラは赤穂線、デは但馬線、そして、フリオールケのケも但馬線にでている。一般には岡山方面にもケは現れるように思うものである。フットルシケは但馬。フリオールケなどの拗音形は日生・備前と岩美・鳥取の中国地方になっているが、ごく最近まで赤穂市にもあったはず、現在もあることと考えられる。

この(表3)を「浜坂」の地点での変化をみると、「ふつう」から「大阪の人に」「東京の人に」へと、フットル

(表2)

○ ステル ■ ホカス
 -○ シテル ◆ ホール
 ▲ ホテル

「捨てる」(ふつう)

成男	■	■	○	■	-○		■	■	■	■	■	■	◆	■	▲	■	▲
成女	■	○	○	-○	-○		■	■	■	○	■	■	■	■	■	■	■
少男	■	○	■	○	○		■	■	◆	◆	■	■	○	■	○	○	○
少女	■	○	○	○	○		■	■	○	■	○	○	○	■	○	■	▲
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(大阪の人に)

成男	■	■	○	○	-○		■	■	■	■	■	○	◆	■	■	○	○
成女	■	○	○	○	-○		■	○	○	○	■	○	■	■	■	○	○
少男	■	○	■	○	○		■	○	◆	◆	■	■	○	■	○	○	○
少女	■	○	■	○	○		○	○	○	■	○	○	○	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(東京の人に)

成男	■	○	○	○	○		■	■	■	■	■	○	◆	○	■	○	○
成女	■	○	○	○	-○		■	○	○	○	■	○	■	■	■	○	○
少男	■	○	■	○	○		○	○	◆	○	■	■	○	■	○	○	○
少女	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(表3)

○	フッテイルカラ	△	フットルケー
	フッテイルノデ	△	フリヨルカラ
	フッテルカラ		フリョールカラ
●	フットルカラ	△	フリョールカラ
	フットーカラ	▲	フリョールケ
■	フットルデ	◆	フッテイルケ
	フットーデ		フッテルケ
+	フットルシケー		

「降っているから」(ふつう)

成男	●	●	●	△	△		●	+	●	■	■	○	○	+	△	▲	△
成女	●	△	●	△	△		+	■	●	●	+	■	●	+	△	●	△
少男	●	●	△	△	△		■	+	●	+	+	■	+	+	△	△	△
少女	●	●	△	△	△		■	■	+	+	+	■	+	+	△	△	△
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(大阪の人に)

成男	●	●	○	△	△		●	●	●	●	○	○	○	●	○	▲	△
成女	○	○	○	△	△		+	●	●	○	○	○	●	○	◆	●	○
少男	●	●	●	△	○		■	■	●	●	+	■	+	+	△	●	△
少女	●	○	○	○	△		●	●	●	●	+	■	+	○	△	●	◆
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(東京の人に)

成男	○	●	○	△	△		●	●	●	●	○	○	○	○	○	△	△
成女	○	○	○	△	△		+	○	●	○	○	○	●	○	◆	●	○
少男	○	●	○	△	○		○	■	●	○	○	○	+	+	○	○	△
少女	○	○	○	○	△		○	○	○	○	○	■	○	○	○	○	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

ケー↓フッテルケー↓フッテルカラとなり標準化していく過程が見られる。

語彙の地域差と年齢差

〈あなたが、ふだんお使いになっていることばについてお聞きしたいと思います。次のようなことばを、お使いになるか、どうか、次の三つの中から選んで下さい。〉

- | | | |
|------|---------------------|-------------------|
| 1 使う | 2 自分は使わないが聞いたことはある。 | 3 使わない (聞いたこともない) |
| 1 使う | 2 聞く | 3 使わない |

ここにあげた語は、一般に京阪語とみられているもので、前田勇著『大阪弁の研究』・榎垣実著『京言葉』に出てくるものである。

はじめにあげたグループの五語は成人層に「使う」「聞く」が多く、少年層に「使わない」または「聞く」が多いものである。これらは成人層関西式、少年層非関西式といえるもので、将来、この地域ではこれらのグループの関西式が衰えていくのではないかと考えられる。

「オトンボ」〈末っ子〉

成人では殆ど「使う」でありながら少年層は「聞かない」。例えば、両親が使っていることばをその子が聞いたことのないというのは少々おかしいようにも思うが、家庭内で使う場面が少ないということからくるものだろうか。少年層にも「使う」や「聞く」もまじってはいえる。この京阪語は鳥取市までは及んでいないものと見られる。

「ソゲ」〈木片のとげ 手にささるもの〉

これも同様であるが、少年層に「聞く」がオトンボよりはやや多いようだ。少年層と日常生活に關係ある語ということからだろうか。

(表4)

○ 使う △ 聞く × 使わない

「オトンボ」

成男	△	○	○	○	○		△	○	○	○	○	△	○	△	○	△	×
成女	○	△	○	○	△		○	○	△	△	○	△	○	○	○	×	×
少男	×	△	×	×	×		×	×	×	△	×	×	×	×	×	△	×
少女	×	×	×	△	△		×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「ソゲ」

成男	○	○	○	○	○		×	△	○	○	△	△	○	○	○	△	×
成女	△	○	○	○	○		○	△	○	○	○	○	○	△	○	△	△
少男	○	×	△	×	×		△	×	△	△	×	×	△	×	×	×	×
少女	△	△	△	○	△		×	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「カタゲル」

成男	○	○	△	△	×		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×
成女	○	△	△	△	○		○	○	△	○	△	△	△	○	○	△	×
少男	△	△	△	○	×		×	△	△	△	×	×	△	×	△	×	×
少女	×	×	×	△	△		×	×	×	×	△	×	×	△	×	△	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

○ 使う △ 聞く × 使わない

「ニナウ」

成男	○	△	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
成女	○	△	△	○	△		○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	△
少男	△	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
少女	△	△	△	△	△		×	△	△	×	×	×	×	△	×	△	△
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「ナキミソ」

成男	○	△	○	×	×		△	×	○	△	○	△	○	△	○	×	△
成女	○	○	○	○	○		×	○	○	△	△	○	○	○	○	×	×
少男	△	×	△	×	×		×	△	×	×	△	△	×	×	×	×	×
少女	×	△	×	△	△		△	△	△	△	×	×	△	△	△	△	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「カタゲル」へ「材木を肩に」かつぐ

「ニナウ」へ「てんびん棒で」かつぐ

両語とも少年層には、材木や、てんびん棒にこだわることなく同様の動作にこの語形を使うかとなすねたが、「聞かない」が多い。ニナウとともに同じ意味でイナウの方もたずねたが少年層でイナウは皆無に近かった。ただ、「聞く」は少年男子にカタゲルが多く、少年女子にニナウが多い。

「ナキミソ」へ泣虫

同様だが、少年層に「聞く」がやや多くなっている。この語も鳥取県までは及んでいないようだ。

「カントダキ」へ煮こみ おでん

「メバチコ」へものもらい 目にできるもの

この二つは、成人・少年とも赤穂線に「使う」「聞く」が多く、但馬線で「使わない」が多いもの。カントダキ・メバチコともに但馬線でも女性（成人・少年層）には「使う」がいくらか見られる。これは古い形として残ったものだろうか。但馬線では

(表5)

「カントダキ」

成男	○	○	○	○	○		×	△	×	△	○	×	△	○	△	△	△
成女	○	○	○	○	○		○	△	○	○	○	×	○	○	△	△	△
少男	△	○	△	○	×		×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
少女	△	○	○	○	×		△	△	×	○	×	△	×	×	×	×	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「メバチコ」

成男	○	○	○	○	○		×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	△
成女	○	○	○	○	○		×	○	○	○	×	×	○	○	△	△	○
少男	○	○	○	○	○		△	△	×	△	×	×	×	×	×	×	△
少女	○	○	○	○	○		○	×	×	○	○	×	×	○	△	△	△
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

オデン・メボが使われているようである。オデンは標準語形。メボはこの辺りで優勢語のようだから但馬から鳥取にかけてはカントダキ・メバチコは衰えていくおそれがある。^(注)

「手袋を“ハク”へ手袋を“はめる”

「ギョーサン」へたくさん・おおぜい」

「ナオス」へかたづけろ」

この三語は関西一般に広く使われているもの。

(表6) に見る通り今回の調査でも全地点に

「使う」が多いものである。

ハクは、(手袋を) サスとともに調べたがサスは全地点とも殆どなく、ハクは先のカントダキ・メバチコと同様赤穂線にあり、但馬線に少ない。

しかし、先の二語にくらべると但馬線でも「使う」がいくらか多い。

特に、この京阪語は養父まで進出しているから少くとも兵庫県内では将来多くなっていくことと思われる。靴・靴下・足袋をハクということから

(表6)

(手袋を) ハク

成男	○	○	○	○	△		○	×	○	×	○	△	○	○	△	×	△
成女	○	○	○	○	○		○	△	△	△	×	△	○	○	△	×	×
少男	○	○	○	△	○		△	△	×	×	△	×	△	△	△	×	×
少女	○	○	△	○	○		○	×	△	△	○	×	○	○	△	○	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「ギョーサン」

成男	△	○	○	△	○		○	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○
成女	○	○	○	○	○		○	○	△	○	○	△	○	○	△	△	○
少男	△	○	○	○	○		△	△	△	○	△	△	△	○	△	△	○
少女	○	○	△	○	○		△	○	△	△	△	△	△	○	○	△	○
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「ナオス」

成男	○	○	△	○	○		△	×	○	△	△	○	○	○	○	○	○
成女	○	○	○	△	△		○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
少男	○	○	△	×	△		△	○	○	△	△	○	△	△	○	△	△
少女	○	○	○	○	△		○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

(表7)

「ツズクル」

成男	△	×	×	△	×		×	×	×	×	○	×	△	△	○	×	×
成女	△	△	×	○	△		○	△	×	△	×	×	○	△	△	×	△
少男	×	×	×	×	×		×	×	×	△	×	×	△	×	×	×	×
少女	×	△	×	×	×		×	△	×	×	×	△	×	×	×	×	△
地点	竜野	相生	赤穂	日生	備前		養父	八鹿	日高	豊岡	城崎	出石	竹野	香住	浜坂	岩美	鳥取

「手袋も」という関連の可能性がある。

「ギョーサン」はヨークとともに調べたがヨークは全地点・全年齢層「使う」である。ナオスとともに京阪語の進出を示している。鳥取市までも入りこんだものである。

ナオスも同様であるが、ただ、中学生にいくらか減少が見られるのはシマウになろうとしているのだろうか。

「ツズクル」へ「衣服などを」修繕する

衣服などがほころびたとき「ちよっと、ここをツズクッテ」などとして用いる語であるが、全地点とも「使わない」ようだ。

成人女性に関係ある語ということからか、いくらか残っている。やがて亡びていく語であろう。この語の意味的使用場面の頻度が少ないということからの減少かと考えられる。

以上、京阪語の使用場面と年齢差とを見てきたが、今後の課題としてインフォーマントの京阪語に対する意識との関係。また、もっと多人数の調査をする必要があると反省している。

さかえゆく京阪語と亡びゆく京阪語の意味内容からの考察。また、場面によって使い分けながら、なお残っていく関西共通語というべき性格をもつ語があることがわかる。

なお、関西人が、これは全国共通語だろうと意識しているような語がある。チリメンジャコ（しらす）、コケル（ころぶ）、サンパツヤ（床屋・理髪店）など、これらは今回の調査でも全地点で「使う」であったので本稿では省くことにした。

本調査にあたってお世話になったインフォーマントの方々、各地の教育委員会・中学校に厚く感謝の意を表す。

（注）

鳥取県は（こ飯）タク、（大根）ニルの地域。岡山県東部は、大阪・神戸と同様で両方ともタク地域。岡山県中部から西部は鳥取県と同じ。したがって、おかずをニルの地域にはカントウダキはなく、オデンなどになるものと思われる。ただ、神戸でも「煮物」の名詞形はある。